

⑦5 インフラマネジメント基盤DoboX「ドボックス」による 新たなサービスの提供

受賞機関 広島県 土木建築局 建設DX担当

キーワード データ連携、データ利活用、人材育成

全建賞審査委員会の評価ポイント

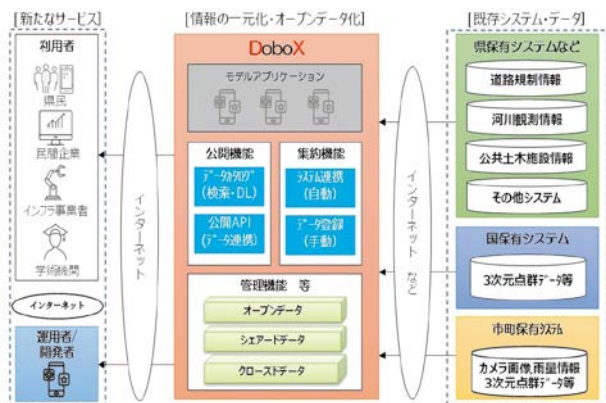
公共土木施設等に関する情報を一元化・オープン化しデータ連携を可能とするシステム基盤の構築。災害リスク情報やインフラ施設の情報、道路規制情報、3D都市モデルなど数多くの情報を一元化・オープン化した点や、地域主導で活用され防災活動などの地域の課題解決、デジタル人材育成に寄与した点が評価された。

1. はじめに

広島県では、建設分野の調査、設計、施工から維持管理のあらゆる段階において、デジタル技術を最大限に活用し、官民が連携してインフラ（公共土木施設等）をより効果的・効率的にマネジメントしていくために、目指す姿や様々な取組案をとりまとめた「広島デジフラ構想」を令和3年3月に策定し、現在50の取組を進めているところである。この取組の一つである「インフラマネジメント基盤DoboX^{※1}（ドボックス）」の取組について紹介する。

2. 事業の概要

公共土木施設等に関するあらゆる情報を一元化・オープン化し、外部システムとのデータ連携を可能とする基盤であるインフラマネジメント基盤DoboXを令和4年6月から運用している。また、データの利活用を通じ、地域の課題解決を図る新たなサービスの提供や、デジタル人材の育成に取り組み、「広島デジフラ構想」の目指す姿である、県民の安全・安心、利便性の向上、建設分野の生産性向上などの実現に向け、取組を推進している。



システム概要図

3. 事業の成果

DoboXは、県が保有する土木施設情報、3D都市モデル、地形の3次元点群データなどの様々なデータに加え、国、市町、民間事業者が保有するデータなど100種類以上を公開するとともに、DoboXのデータを可視化する「災害リスクマップ」などのサービスを提供することで、地域主導による防災意識の醸成、大学等における研究等で広く活用され、防災、交通など様々な分野で地域課題の解決に寄与することができた。

また、DoboXのデータなどを活用し、学生や民間事業者が地域の課題解決に向けたアイデアやアプリ開発を促すためのイベント（ハッカソン^{※2}）の開催や優秀作品を選考するコンテストを開催するなど、データ利活用を通じた次世代を担うデジタル人材の育成にも取り組んだ。



コンテストとハッカソンの事例

4. おわりに

今後も、オープンデータの充実、データ連携の拡大を進めるとともに、更なるデータの利活用につながる取組を推進して、新たなサービスの提供や付加価値の創出により、県民の安全・安心や利便性の向上等が図られるよう取り組んでいく。

DoboX
土木×DX=ドボックス



【用語解説】

- ※1 DoboX：インフラマネジメント基盤の呼称。「土木」と「DX」を掛け合わせた造語
- ※2 ハッカソン：ITエンジニアなどのメンター（指導者）がアプリケーションの開発を支援するイベント